

6 祈りの道、戦いの道

三市郷川町

早川町

身延町

南部町

久遠寺くおんじは日蓮宗の総本山であるが、ここに詣でる信仰の道が「みのぶ道」。久遠寺の伽藍がらんが現在の地に整備されたのは室町時代で、周辺には門前町が形成された。武田家やその家臣の穴山氏、徳川家など歴代領主や為政者から庇護された結果、寺院は大いに繁栄し、江戸時代中期以降は多くの庶民も参拝に訪れるようになった。

その一方で、このルートには「戦いの道」という側面もあった。戦国時代には武田信玄による軍用道路の整備が大々的に行われたが（甲斐九筋）、ここはするが駿河に通じる重要な道として整備された。



2 菅沼城跡

天正10年(1582)6月の本能寺の変の直後、河内領主の穴山梅雪急死に伴い、甲斐の領有をもくろむ徳川家康が、武田氏旧臣の岡部正綱に命じ築いた城。慶長7年(1602)には廃城となったと伝わる。中富中学校建設にあたり、本丸北面の土塁、西端の堀切、烽火台跡や南面山腹の帯曲輪などが調査された。南側の尾根には数段のテラスが残る。周辺には町屋林・下町屋・町屋などの地名が残り、城下町も整備されていたと考えられる。町指定文化財。



1 大島古戦場

大永元年(1521)、今川氏の家臣・福島正成が兵1万5千により来襲し、この地で武田勢と激戦となった。福島勢は武田軍を破り下山を経て甲府へ侵攻したものの、荒川右岸の飯田河原と上条河原で武田信虎に大敗した。古戦場跡は上大島集落南側の一角に残されており、五輪塔がその昔を語るように佇んでいる。町指定文化財。



3 本城山城跡

大島古戦場跡の南1.5kmほどのところにある中世の山城。山頂には平坦地があり、これが主郭と想定される。南東角には土塁状の高まりが見られる。この主郭から東・南側には山腹を下りながら細長い郭が構築されており、さらに裾部にある自然地形を生かした空堀によって東に連なる山々から切り離されている。以上のような構造から、本城山には駿河方面に備える機能があったものと考えられる。空堀と帯郭の一部については発掘調査が行われ、17本の木杭が打設された溝なども確認されている。

- 西河内路
- 富士川、早川
- 東河内路
- ◎ 宿場